

# 不二健育会 特別養護老人ホーム ケアポート板橋

黒羽絵里(職種/OT/所属部署 特養)

**功 績** R4年6月自宅にてCOVID-19に罹患し、倒れているところを発見される。救急搬送され、高度脱水による腎不全にて入院となり、人工透析及び人工呼吸器使用の治療が1ヵ月以上続き、自宅退居を迫られてしまう。R4年9月措置入所にてケアポート板橋へ入所となったケース。

認知症の進行があり、在宅復帰が困難だと思われていたが、措置入所当時の要介護4から要介護1まで改善し、生活保護の申請、軽費老人ホームに入所、自分らしい生活を取り戻すことができた。

ご本人の「退所して自分で生活をしたい」という想いを汲み取り、親身に生活リハビリを実施した結果、ご本人らしい生活を取り戻すことに貢献した功績。

**推 薦 者** 永盛敬太(特養/2階フロア主任)

**推 薦 理 由** 特別養護老人ホームにおいて、ADLの向上だけではなく、体力、意欲の回復、食事形態の改善は、黒羽の専門性視点はもちろん、ご利用者のやる気を引き出す能力、寄り添った対応力、信頼関係の構築力に長けているからこそその成果だと考えます。

ご利用者の「自分らしさ」「輝きのある生活」に繋がり、テレビを見たり、本を好きな時に読んだり、トイレに行きたい時に行き、必要な物は手紙を書いて残したりと、当たり前前の生活を取り戻すことができました。黒羽による親身な対応により、ご利用者は笑顔で退所されていきました。

## 内 容

令和4年6月下旬、自宅で倒れているところを発見され、COVID-19の罹患が発覚した利用者さん。意識不明による挿管、人工呼吸器、人工透析治療が1か月以上続き、ようやく状態は安定。独居であり、身寄り及び貯金も少なく自宅退去を迫られている状況でした。在宅復帰困難、認知症進行もあるため、北区からの措置入所。「退所して自分で生活をしたい」という希望はあったものの、入所当時はADLの低下が著しく車椅子での生活でした。

黒羽は、車椅子からベッド間の移動及び歩行能力の評価を行い、訓練計画の立案、介護職員へ注意点や転倒予防のポイントを伝えていきました。不安定な手引き歩行から、徐々にシルバーカーへ移行。歩行について不安な気持ちを伺いながら、シルバーカー等の補助具の調整を行って行きました。

10月に入り、自助リハビリも継続する事でADLは劇的に回復。杖歩行及び階段昇降を開始し、ご本人より「早く社会復帰したい」「黒羽さんに相談があるんだけど」と黒羽に信頼を置き、前向きな発言も増えていきました。屋外での歩行訓練、社会復帰を目標におき、ビニール傘やボールを持っての歩行をリハビリへ取り入れ、入浴形態はリフト浴対応から大浴に入れるまで改善しました。その後も、施設周辺20分程のコース(横断歩道、歩道橋昇降)を継続する事で、歩行能力だけではなく、生活意欲も向上していきました。食事は入所当時は、

粥+極刻みでしたが、ご飯大盛り、刻み食へと改善しました。

軽費老人ホームに入所が決まってからも社会復帰出来るように、傘をさして歩く練習、コンビニまで実際に買い物を行ったりと個別性のあるリハビリを実施した事で退所という結果になりました。